

AKAMAI ソリューション概要

Akamai Guardicore Segmentation および ServiceNow CMDB 統合

個々のデータソースを統合して、クラウドインフラ、データセンター、
エンドポイント全体で、統一されたラベリングスキームを作成できます

組織の IT サービス管理プログラムの中心となるのは、存在する資産、その接続方法、時間の経過に伴う設定の変化を把握することです。この情報を設定管理データベースと統合して、セキュリティ・テクノロジー・スタックに取り込むことで、セキュリティプロセスを改善してリスクを大幅に軽減するために必要な情報をツールに供給できます。

可視性とマイクロセグメンテーション

Akamai Guardicore Segmentation と ServiceNow の統合により、組織は他の ITSM プロセスから収集したデータを活用し、ライフサイクル全体を通して一貫したセキュリティを、資産まで拡張して確保できます。アプリケーションとネットワークの依存関係マップを生成し、精度の高い CMDB データによりラベルを割り当てた後、このジョイントソリューションを使用して適切なセグメンテーションポリシーを作成できます。

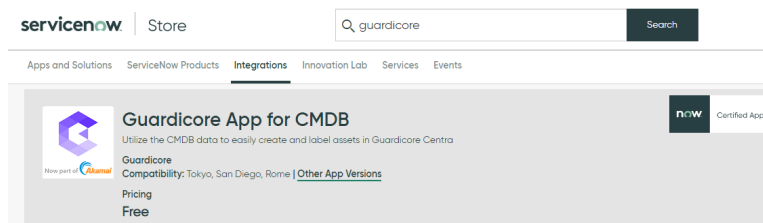
また、Akamai Guardicore Segmentation のラベル構造には制限がないため、ServiceNow CMDB をそのまま活用できます。ラベルを操作してラベル使用数を一定数未満に抑える必要はありません。

統合の仕組み

統合は、ServiceNow CMDB 用のアプリを通じて提供されます。その後、専用のオーケストレーションを使用してプラットフォームでラベルを作成します。このアプローチでは、CMDB データを使用してポリシーや Reveal マップを作成する際に使用する、他のシステムと一貫した柔軟なラベリングスキームを維持することができます。

簡単な設定プロセス

搭載されたこのインテグレーション機能を使用して CMDB データを取得するためには、ServiceNow ストアからアプリをインストールし、続いて次の手順を進めます。



1. ServiceNow の役割と権限を設定します
2. REST API を Akamai Guardicore Segmentation にアクティベートします
3. これで CMDB データを使用できるようになります

可用性

- Akamai Guardicore Segmentation for CMDB (ServiceNow ストアで入手可能)
- Akamai Guardicore Segmentation R32 以上

この統合やその他の統合について詳しい情報をお求めの場合や、デモをご希望の場合は、esg-bd@akamai.com までお問い合わせください

主なメリット

- クラウド、データセンター、IoT、OT 向けの既存の CMDB 情報を活用
- ラベリングスキームを変更することなく、ネイティブに統合
- CMDB 資産ライフサイクル管理を使用してワークフローを自動化することで、セキュリティコストと運用コストを削減
- オートメーションとすべての資産の情報フローの改善により、監査コストを削減

